

## モノづくりベンチャーの技術開発を応援するファンドを設立

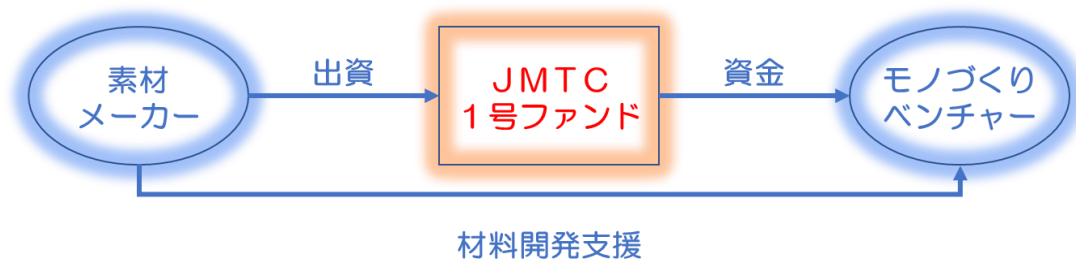
### ～旭硝子・三井化学などと材料開発を支援～

日本材料技研株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 浦田 興優、以下「日本材料技研」）は、このたび、完全子会社であるJMTCキャピタル合同会社を運営会社とする「JMTCキャピタル1号投資事業有限責任組合」（以下「JMTC1号ファンド」）を設立し、設立時点の出資企業として旭硝子株式会社・三井化学株式会社を迎え、材料開発支援を通じてモノづくりベンチャーを応援する取り組みをスタートさせました。（2017年12月28日追記：2017年12月末までに、JX金属株式会社、株式会社ダイセルが出資企業として加わり、総額10億円の資金調達を完了しました。）

第四次産業革命とも呼ばれる産業構造転換の中、IoTベンチャーやロボティクスベンチャーなどは、ハードウェア開発を伴うモノづくりベンチャーとして、ライフスタイルの変革に挑戦しています。一方で、モノづくりベンチャーのハードウェア開発が進んでいくと、当然のことながら多くの技術課題に直面します。そうした技術課題の多くは、より要求特性に合った材料を採用することによって解決することができます。

しかし、モノづくりベンチャーの多くは技術力のある素材メーカーとの接点に乏しく、また素材メーカー側もモノづくりベンチャーのニーズを掴むためのマーケティング網を十分に構築できていません。こうしたニーズとシーズのミスマッチは、モノづくりベンチャーのハードウェア開発のスピードの制約条件となっています。また素材メーカーにとっても、新しいニーズを掴み新規事業創出につなげることは、大きな戦略課題となっています。

JMTC1号ファンドは、出資者である各素材メーカーがファンドを通じた資金に加えて、各社の技術的強みを活かした材料開発支援を行い、モノづくりベンチャーの成長加速に貢献します。



日本材料技研は、材料分野に特化したファブレス型ベンチャーとして、国内企業や大学・研究機関等で開発された革新的技術について、ライセンスアウトやカーブアウトを通じた事業化に取り組んでいます。当ファンドの設立を通じ、モノづくりベンチャーが創出する先端的な市場ニーズに対するアンテナ機能を強化することで、革新的材料技術のインキュベーションにつなげてまいります。